

令和 7 年度 事業報告

社会福祉法人 布引会
特別養護老人ホーム 玉園ハイム

1. 総括

令和 7 年度は、全国的な介護人材不足の深刻化に加え、入居者の重度化および医療ニーズの増加が顕著となり、当施設においても運営面・人員面の双方において厳しい環境下での事業運営となった。

特に、入居者の高齢化に伴う慢性疾患の増加や、医療的ケアを必要とするケースの増加により、看護・介護の連携強化および協力医療機関との連携がこれまで以上に重要となった。このような状況においても、特別養護老人ホーム、ショートステイセンター、ケアプランセンターの各事業が相互に連携し、地域における介護拠点としての役割を維持するとともに、稼働率の確保およびサービスの質の維持・向上に努めた一年であった。

一方で、人材確保の困難さや職員の業務負担増加といった構造的課題は依然として大きく、今後の安定的な運営に向けては、より一層の対策が求められる状況である。

2. 事業運営の基本方針（令和 7 年度）

令和 7 年度は、以下の基本方針に基づき事業運営を行った。

- ・地域から信頼され、継続して選ばれる施設運営の推進。
- ・入居者の重度化および医療ニーズの高度化への対応力強化
- ・人材不足を踏まえた持続可能な運営体制の構築。

これらの方針のもと、各事業において具体的な取り組みを実施した。

3. 事業別報告

（1）特別養護老人ホーム 玉園ハイム

① 運営状況

- ・入居定員：50 名
- ・年間平均稼働率：96.1%（平均入居者数 48.0 名）

年間を通じて、入居者の入院に伴う空床が断続的に発生したものの、待機者の適切な調整および退院支援を積極的に行うことで、高い稼働率を維持した。

② 主な取り組み

- ・看護職員と介護職員間の情報共有体制の強化による体調変化の早期把握。
- ・協力医療機関との連携強化による円滑な入退院調整。
- ・看取りケアの充実と家族への心理的支援の強化。
- ・担当者会議の定期開催によるケア内容の見直し、及び質の向上。

③ 評価

医療ニーズの高い入居者が増加する中においても、適切なケア提供と関係機関との連携により、安定した運営を維持することができた。

④ 課題

- ・医療依存度の高い入居者増加に伴う入院リスクの増大。
- ・慢性的な人員不足による職員の身体的・精神的負担の増加。

(2) ショートステイセンター 玉園ハイム

① 運営状況

- ・入居定員：10名
- ・年間平均稼働率：64.0%（平均利用者数 6.4名）

利用率が季節や時期により違い、受入制限を行わざるを得ない場面が見られた。

② 主な取り組み

- ・居宅介護支援事業所との連携強化による利用促進。（広報誌の郵送等）
- ・空床情報の積極的な発信。
- ・緊急利用への柔軟な対応体制の構築。

③ 評価

限られた人員体制の中でも一定の受入実績を確保し、地域ニーズへの対応を継続することができた。ただ、目標とした稼働率 70%には至らなかった。

④ 課題

- ・安定的な受入体制の確立。
- ・特養との人員バランスを踏まえた運営の最適化。
- ・中長期的な事業継続の方向性の検討。（令和9年度以降）

(3) ケアプランセンター 玉園ハイム

① 運営状況

2名体制により運営を継続し、担当件数の安定確保に努めた。

- ・要介護利用者：57.4名
- ・要支援利用者：12.8名
- ・合計：70.2名

② 主な取り組み

- ・地域包括支援センターとの連携強化。
- ・利用者および家族への丁寧な相談支援の実施。
- ・施設サービスとの連携による在宅生活の継続支援。

③ 評価

限られた人員体制の中で、安定したケアマネジメントを提供することができた。

④ 課題

- ・相談件数の増加に伴う業務負担の増大。
- ・記録業務および事務作業の効率化の必要性。

4. 人材確保および職場環境改善への取り組み

人材不足への対応として、以下の取り組みを実施した。

- ・職員定期面談の実施および人事考課制度による職員フォロー。
- ・協力医療機関の支援を活用した研修機会の確保および人材育成。

- ・広報誌の発行および SNS（インスタグラム）を活用した採用活動の強化。
- ・パンフレットの作成、及び道路看板の設置。
- ・職員アンケートの実施やマルシェ開催等による職場環境の改善。
- ・ハラスメント担当者任命等、働きやすい職場環境づくりに向けた環境改善。

これらの取り組みを実施したものの、人材確保および定着については依然として十分な成果には至らず、継続的な課題として残る結果となった。

5. 総合評価と次年度への課題

令和7年度は、人員不足という制約がある中においても、各事業が相互に連携し、施設全体としての運営の安定化を図ることができた。

一方で、各事業における稼働率のさらなる向上、経営基盤の強化、人材の確保、及び定着は引き続き優先的に取り組むべき重要課題である。

6. 令和8年度においては、以下の点を重点的に推進する。

- ・福利厚生の実施による職場環境の改善。
- ・職員との定期的な面談機会の確保と意見の積極的な収集。（人事考課の継続）
- ・職員一人ひとりの経営参画意識の醸成。
（「全員経営・全員主役」の実現、希望者の施設長面談の実施）
- ・協力病院との連携による高稼働率の維持。
- ・生産性向上に向けた具体的施策として、若手職員を中心に介護ソフトの導入、及び業務効率化・サービスの質の向上。
- ・広報誌発行、SNS の更新等を継続して行い、対外的な施設アピール、及び利用者の集客・職員求人に繋げる。
- ・老朽化した設備等の計画的な入替の実施。

以上が、令和7年度社会福祉法人布引会の事業報告となります。